

## 2005 年度北海道 IBD 活動報告

2005 年度の活動は別表に一覧としましたが、これらをふり返って総括しました。

1.各地で「楽しい集会」を実践しました。旭川は恒例の花見や宿泊交流会、函館はボウリングと会食、北見のサテライト集会、苫小牧でおしゃべりの集い、札幌ではプロ野球観戦など友情を深め明日へのエネルギーを楽しい集いで汲みだしました。

2.要望別階層別の集会が定着しました。「お母さんのつどい」は子どもの病気に悩むお母さんの助っ人集会として存在を大きくし、総会記念シンポジウムの「就労就職の体験交流」では渦中の若者と先輩勤労者の思いががっちりスクラムを組んで、病気を持ちながら働くことの体験を語り合いました。

3.会がブックレットを出版しました。シリーズ1号の「クローン病潰瘍性大腸炎との付き合い方」は発売4ヶ月で1500冊を販売し、会員だけではなく広く病気に悩む人々を励まし、共感を集めることができました。本を読んで会に入る方も出ています。医療が進歩して病気を持ちながらそれなりの生活を送れるようになった今、体の状態を良く維持しながら社会人として学生として生活するための「生活応援歌」として、シリーズで発行します。

4.病気について学ぶ活動では札幌はじめ北見、函館で医療講演会が活発に開催され、特に札幌では「治験」をテーマにし、同時に会員が研究発表もするなど、新しい取り組みも行いました。

5.組織を間違えなく運営するために「全道役員研修会」を行いました。すべての支部の代表を含め19人の参加という熱心な勉強会で運動を深く学びました。

6.機関誌に「北海道 IBD 諸国めぐり」掲載が始まりました。全国に散在する会員からお国自慢や地域の事情を投稿していただいています。全国規模で活動を行っている会の様子が各地から伝わってきます。

7.05年度の新入会員は47名です。年度末の会員数は564名(会の発足以来の累計は965人)です。諸集会の参加者は累積407人(総会124、単独の医療講演会100、新入会員オリエンテーション38、レク交流会145、支部の集会205(内数))などです。IBD会館での相談件数は31件、IBD会館は毎週木曜日に活動しました。

北海道難病連の募金箱は現在19箇所、31個が北海道IBDによって運用されています。札幌では文教堂書店チェーン、南平岸のパンのパネテリア、札幌厚生病院においてあります。回収には運営委員らが年に2回お店に出向きます。合わせて年間10万円以上になり、その50%が会に還元されます。

今年度の「JPA国会請願署名」は2月末に集約しましたがお陰様で署名2002筆、86800円(2004年度1937筆83800円、2003年度3043筆160250円)が集まりました。皆さんの奮闘に心から感謝します。募金は請願行動旅費などに使います。

北海道難病連協力会は現在75口の会員です。資金面で難病連の活動を支えるもので、部会の会費とは別ですが、50%が還元されます。

北海道からの助成金が3年連続10%、さらに今年度は25%と大幅に削られたため、難病連の活動は困難を極めています。より多くの方の入会をお願いします。

